第151回街なか研究会

「巨大開発に隣接するまち“新宿東口”のまちづくり」

～地元のビルオーナーたちと一緒に考えたまちづくり活動の意味～

日　時：令和５年６月２３日
１８：３０～２０：３０

会　場：株式会社アルメック
９階大会議室
東京都新宿区新宿５－５－３
※会議室へのアクセス方法は参加者に連絡します。

参加費：２，０００円（軽食付き）

講　師：小畑清治氏
元新宿研究会事務局長
（一財）日本開発構想研究所理事

申し込み：街なか研究会
machinaka@machi-roji.com
Tel.03-3353-3203(代)

２００４年に「「新宿」の歴史、文化、空間等の特性を、新たな視点で再評価し、＜中略＞時代の要請に応え、生気あふれる商業娯楽文化を創造し、まちの魅力を高め、安心して快適に住み、働き、学び、楽しみ、憩う「新宿」のまちづくりについて、多角的、総合的に考察、提案すること」を目的として発足した新宿研究会、「新宿 EAST 協議会」が２０１２年に発足して主な活動を引き継ぎ、２０２１年に活動の一区切りをつけました。

新宿駅周辺では、東西自由通路の完成、そして小田急百貨店本館の解体が始まり、いよいよ新たな開発が動き始めています。

今回、新宿研究会に参加し、事務局長を勤められた小畑さんをお迎えして、新宿駅東口のまちづくりについてお話をうかがい、参加者の皆さんと意見交換したいと思います。

巨大開発に隣接するまち“新宿東口”のまちづくり

地元のビルオーナーたちと一緒に考えたまちづくり活動の意味

元新宿研究会 事務局長　　小畑晴治

はじめに　新宿駅東口地区の概要と歴史

・新宿駅東口のまちづくり協議会発足１２年の今、巨大開発に対峙する“界隈性の残るまち”

・２０ha の東口地区　巨大ターミナル駅、靖国通り＋甲州街道＋明治通りバイパス＋JR

・戦前・戦後から生活文化：歌声喫茶、どん底、風月堂、赤テント、学生運動、アングラ

・「街並み誘導型地区計画」による地権者参加のルールづくりと個別更新対応の事業手法

１．“まちのあり方から考える『住民参加（地元地権者）参加』”のまちづくり

・商業活動上のリスクヘッジに対応（景気動向や社会動向を注視したリスク回避）

・モダニズム都市計画（合理主義・機能主義・国際様式）でないテイスト（界隈性）

・金融経済主義的な事業でない（老舗の誇り、顧客満足度、おもてなし、こだわり）

２．“まちの持続可能性”の観点から考えるアンチ巨大開発

・巨大化で失われる“まちの魅力”“まちの持続的活力”に要注意

・1960 年代初期に問題に気付いた J ジェイコブスと NJ ハブラーケン

・1990 年代までに先進諸国で明らかになった巨大都市開発の問題点

３．『都市計画法１００周年事業(2019)』での表彰　“銀座”と“新宿東口”

・銀座と新宿 EAST 地区のまちづくりが表彰（都内で２つ）

・伊藤 滋氏の講演　新宿西口（超高層街区）・”都市再生特区型”開発に NO を

・“表彰の意味”が、地元には不可解に感じられた

４．『都市再生』で“都市は再生できるか？”

・“「計画」型の手法”では、レプリカはつくれても！“界隈性”は創れない。

・“横丁や路地のある都市空間”

むすび

・社会学的なアプローチを欠く“都市計画”では、まちの魅力や活力が持続できない

・金融経済主義の開発では、魅力的な繁華街は生まれない

・最大公約数的な計画の発想よりも最小公倍数的な魅力要素の投入が功を奏する